

門よ開け（もんよあけ）ミニストーリー 平山輝明&廣恵&主恩@タイ・チェンライ

「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」ヘブル人への手紙 11:1

ハレルヤ！主の御名をたたえます。

2008年から埼玉県所沢市にて開拓をしておりましたオレンジ・カフェ・チャーチでしたが、今年2月に神様によってチェンライへ行くように示され、祈りつつ準備をしておりました。同じ地域で親友の「狭山ヶ丘チャペル（ホサナ福音キリスト教会）・寺田麻記子師」及び「実りの家（単立）・杉本千穂師」の協力を得、仲間たちの新しい所属先を見守りつつ、私たち家族3人は、2012年5月28日（月）、タイへと出発いたしました。

このチェンライ移住の目的は、このように神様から示されています。



・貧しく虐げられている少数民族の自立支援（父・平山義明宣教師と協力しつつ）

Ⅱコリント8:9の御言葉から、困窮する山の上のアカ族、さらには他の少数民族に神の御業が現れるために我々もキリストと同じ目線で、すべきことを遂行していくこと（教会・孤児院・教育・国籍の問題など）。

まず初めの1ヶ月は自分たちの生活の拠点確保に時間を費やしました。

<住居>

タイ・最北に位置するチェンライ県に移住した平山家ですが、いきなり山岳少数民族と同じ生活をするには残念ながら不可能です。チェンライ初心者が見る場所としてチェンライ・コンドートルというコンドミニアムを当面の拠点といたしました。それは、息子の小学校・私たちのタイ語学校・平山宣教師が建てたアカ族の里子教会などの位置を考慮した結果です。

月契約で、1ヶ月4500バーツ（約12000円位）で、最低限の家具のついた家で、寝室が1つ、リビング兼ダイニングルームが1つです。タイのトイレは、バケツにためた水でお尻を洗うタイプ、シャワーは水が一般的ですが、ここは外国人用になっており、トイレは水洗でシャワーもお湯が出ます。

台所がないので、電気コンロ1つ、炊飯器、鍋を2つ購入しました。電子レンジやトースターはありません。冷蔵庫は備え付けのものがありません。洗濯機はやっと購入する決意ができました。新品で2400バーツ位（6500円位）ですが、水道をひねったり閉じたり、自分で排水したりと、日本では考えられないようなアナログな洗濯機ですが、それでも感謝です。

<社会>

チェンライはタイ人中心の社会で、基本言語はタイ語です。私たちが支援しているアカ族を始め、少数民族はそれぞれの民族の母語を持っていますが、山の下では少数民族でもタイ語が中心となります。そのため、民族の母語が忘れられてしまうという危機的状態があります。山の下では、一見、タイ人と変わりない生活に見えますが、みな山の上に実家があります。山にいる



大人たちは、政府からもらう野良仕事で生計を立てています。ちなみに男性の日給が150バーツ（400円くらい）で、それも毎日仕事があるとは限りません。里子になっていない山の子供たちは、山の上の学校に通いながら、村の小さな子供やお年寄りの世話をしています。畑から取れる野菜で自給自足の生活をしており、文盲でタイ語が話せない大人の通訳をします。すでに山から下りてチェンライ市内で生活している大人たちは、固まって特定の場所で暮らし、タイ語を話し、市場で野菜やクラフト（手工芸品）を売って生計を立てています。さらに適応力のある人たちは、タイ人と結婚し、タイ社会に同化しています。同じ民族でも、実情は色々あることが少しずつわかってきています。

そんな複雑な少数民族に対して、タイ社会は厳しいです。少数民族の方々は肌の色が黒く、痩せており、身構えているので大体わかります。タイ人は特にアカ族を蔑視しています。アカ族の子供たちはタイの学校で差別されるため、アカ族であることを隠し、苗字を変えたりします。現地に住む日本人（ノンクリスチャン）も、少数民族を見下した発言をしています。しかし、里子の寮のリーダー、Y氏は「民族は維持されるべきだ」と考えています。その意思を次世代へどうつなげていくかが課題です。

また、里子たちはY氏の尽力により、タイ国籍か何らかの身分証明書を持っているようですが、山の上の人たちの多くは無国籍のままです。先日バスでミャンマー国境に行きましたが、途中で何度も警察の検問があり、全員身分確認をさせられました。日本のパスポートは強力で、警察が私たちに触れることは一切ありませんでしたが、特定の人たちは、荷物からボディチェックまで、見ていて不快になるほど厳しいものでした。これは差別である一方、実際に貧しい身分の人はお金欲しさに麻薬を密輸するケースが多いという両者の問題があります。

また、山の上の村でひどい怪我を負っている子供がいましたが、身分証もお金もないため、何の手当ても受けられない姿を見ました。また、子供が生まれても出生届も出せません。私たちは子供やお年寄りの方々に手を置いて祈り、献金を置いてきましたが、信仰を中心としながら、医療・福祉・教育をいかに健全に導入していくかを考えざるを得ませんでした。

山から下りると私たちの住む市内となりますが、日本の比ではありませんが、山よりも近代的で、車やバイクが多いです。車は日本で見るとセダンタイプではなく、トラックタイプが多いです。それは、市場で商売をしたり、子供さんの家族が荷台に乗るためです。しかし、車はとても高く、中古車でも100万円以下はありません。そのため、私たち家族は中古バイクを約5万円で購入いたしました。先日コンクリートミキサーが突然突っ込んで来て、ケガをしてしまいました。それでもチェンライは電車もなくバスも不便なので、車やバイクが欠かせません。やはり家族の安全を考え、車の必要を感じて祈っています。息子の学校で、息子の友人の保護者が私たちのケガを見て「タイ・タトゥー」だと言っていました。タイでは当たり前という意味です。息子もホッとして、傷だらけのまま、学校へ通っています。

このようにチェンライの社会は見た目はのんびりと平和に見えますが、差別があり、自分の身は自分で守るしかなく、警察も関わりません。若者は2人、3人でバイクで通学・通勤しています。お金持ちは日本人のような新しい車に乗っていますが、貧しい人たちは何十年も同じ車に乗ってボロボロだったり、私たちのようにバイクか自転車しか持っていません。我々がバイクで息子の小学校に通い始めた当初は、差別されましたが、輝明の積極的な社交術で保護者や先生と親しくなることができました。また日本人だとわかると態度が変わります。



<文化>

私たちは少数民族に重荷がありますが、チェンライの町はタイ社会で、タイ人を始めとした多民族との生活にもなじんでいかねばなりません。周りを見渡すと、どこを見ても大きな寺院、立派な金の仏像があります。黄色い袈裟をかけたお坊さんもよく見えます。また、家々の庭や店先には、色とりどりの小さな祠（ほこら）のようなものがあり、線香を立て水や食べ物を供えています。

先日チェンマイへ行った時、バスで隣に座った女子高生が、窓の外に仏像が見える度に両手を合わせて拝んでいました。

当初入学希望をしていた宣教師・牧師のためのクリスチャンスクールは、息子の英語力が足りず、今年はいれませんでした。代わりに入学したインターには仏壇があり、これが一般的です。セレモニーの度に仏壇のロウソ



クや線香に火をつけ、タイ語で仏教の説明をします。ミッションスクールでも仏教の時間があるそうです。ハッキリと仏教の教えを幼少の頃から教えこんでいる教育に驚きました。しかし、仏教教育のおかげで市場で買い物などをしていても、「ぼったくり」がありません。みな誠実で、態度もていねいです。彼らの心の「仏」が、イエス・キリストになるためにも、私たちはクリスチャンとして、出会う方々と温かい交わりを持ち続けていくようにしています。そのためにも現在学んでいるタイ語は重要で、上達するにつれ、タイ人との人間関係の輪も広がっていくのを感じます。一方、日本人との出会いはなかなかなく、日本語の教会もなく、日本人クリスチャンもほとんどいません。

<ミニストーリー>

チェンライに来て、以下の事がらが自然に始まったり関わったりしています。

1. アカ族礼拝参加

- (1) 子供賛美での奏楽奉仕
- (2) 金曜日バンド練習

1ヶ月チェンライに滞在して感じたことは「母国語の礼拝の重要性」です。そのため、アカ語礼拝は月に2回にとどめ、あとは日本語で礼拝する時を持ちます。現在は自宅にて家族3人での礼拝ですが、アカ教会も日本語礼拝の場所として提供されているので、どのように主が導いて下さるか期待しています。また、月2回の礼拝参加でも、平日のプログラムや、市場で出会ったりなど、アカ族の方々とは確実に親交を深めています。また、子供たちの奏楽・賛美の向上、霊的成長のために、不定期ですが奏楽とバンド練習の奉仕に輝明が関わっています。

2. アカ語クラス参加

アカ族でありながら、アカ語を書けない・読めない人たちが多いため、母語を次世代の子供たちに継承していくことは、自立支援の重要な鍵であると考えたY氏と平山義明宣教師によって始められた子供たちのアカ語クラスです。毎週水曜日の夜に開かれ、講師のAさんへの給料は、横浜の教会がささげて下さっています。輝明が参加し、皆と親交を深めつつ、自分でもアカ語を学んでいます。

3. 日本語クラス参加

アカ族の里子たちの里親の多くは日本人です。ほとんどはクリスチャンではないため、里親への感謝と信仰を伝えるためにも、日本語を学ぼうというプロジェクトで、毎週木曜日の夜に開かれています。講師は日本語の上手なPLさんという若いアカ族の女性と、補佐にPくんという少しだけ日本語ができる高校生が活躍しています。ここには平山家3人も参加し、日本の歌を教え、会話をリードしながら、子供たちと親交を深めています。



4. タイ語・日本語エクスチェンジプログラム

高校生のPくんは、優秀だったので、政府が援助する全寮制の学校で学んでいましたが、主への忠実な信仰をつらぬくために、里親によって現在のミッションスクールに転校でき、里子の寮で次世代のリーダーとして訓練を受けています。彼はアカ語・タイ語の他に日本語にも意欲的で、アカ教会の会堂管理人としても頑張っています。現在は経済的問題のため日本語を学べないため、土曜日の夜、平山家で日本語を学び、タイ語を私たちに教えてくれるというエクスチェンジプログラムを始めています。彼は私たちに問題が起きると真っ先に駆けつけて助け、祈ってくれる、心強い信仰の友でもあります。



5. チェンライ市内に住むノンクリスチャン日本人のケア

チェンライには年金生活者の日本人がおり、日本食のお店に行けば会うことができますが、年齢がかなり上のため、私たちが何か語りかけるといことは難しいです。そんな中でも、平山宣教師が関わってきた何人かの日本人の方がいます。日本食レストランを営んでいる50代の娘と80代のお婆ちゃんや、アカ族の奥さんのいる男性経営者などで、彼らには自分たちの目的や信仰について語れるように心を備えて親交を深めています。

<ピザ・これから>

就労ピザ以外は家族ピザが取れないことがわかり、現在私たちは、3人それぞれが学生ピザを1年間申請しています。輝明・主恩はこれからラオスにピザ申請に行く予定です。しかし1年間のピザを持って、90日ごとに国境の町メーサイの移民局で申請しなければなりません。チェンライに暮らし続けることは、神が道を開かない限り不可能であり、畏れ多いことだと感じています。

出発までに、多くの方々から心からの献金、励まし、お祈りを頂き、そのサポートで私たちのミニストリーや生活が守られていることを痛感しております。皆様のために毎日お祈りさせて頂いています。

移住して1ヶ月、バイクの事故で通院したり色々ありますが、新生活はひとまず落ち着いたと言えます。まだ大した働きはできておりませんが、次回お送りするニュースレターでは、さらに神様の御業をご紹介できるように、父なる神の知恵、イエス様の愛、聖霊の力に満たされて、1日1日ベストを尽くしていきたいと思っております。

献金を示された方々がいらっしゃいましたら、是非下記の方へ、具体的なご希望（里子のため、〇〇の必要のためなど）がございましたら、それも添えてくだされば感謝です。

郵便振替口座番号：00160-2-266821

口座名称：門よ開けミニストリー（モンヨアケミニストリー）

領収書の必要な方は、「領収書送付」、お名前の公開を望まない方は、「無記名」をご記入ください。



2012年7月
チェンライにて
平山輝明・廣恵・主恩（8歳）